

月観測データの可視化について

A study of SELENE product visualization on WMS

祖父江 真一 [1]; 奥村 隼人 [2]; 山本 彩 [3]

Shinichi Sobue[1]; Hayato Okumura[2]; Aya Yamamoto[3]

[1] 宇宙機構; [2] JAXA/SELENE; [3] レステック

[1] JAXA; [2] JAXA/SELENE; [3] RESTEC

<http://www.selene.tksc.jaxa.jp>

宇宙航空研究開発機構 (JAXA) においては、2007年夏の打ち上げを目指して、現在、月周回衛星 (SELENE: SELENOlogical and ENgineering Explorer) の開発を進めている。この SELENE から得られる観測データを、国内外の研究者等に広く提供するためのシステムを JAXA 相模原キャンパスの SOAC(月運用・ミッション解析センター) に整備している。SELENE プロジェクトではこのシステムから得られる L2 プロダクト等を使って、データを可視化する方式の検討を行ってきた。あわせて、OpenGIS の Web Map server などを用い、可視化した画像を月の回転楕円体に貼り付け、3次元ビューワーにより表示する検討も SELENE プロジェクトでは実施してきた。本稿では、SELENE から得られる月観測データ可視化手法の検討状況について報告する。あわせて、SELENE の概要について報告するものである。